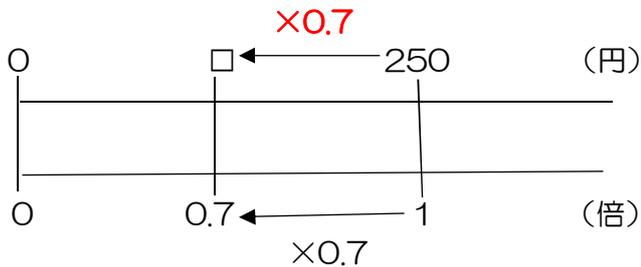


割合の問題を解くとき、数直線図を使うと理解しにくい問題について

みかさんは、250円のマジックペンを30%引きのねだんで買いました。代金はいくらですか。

数直線図をかくと



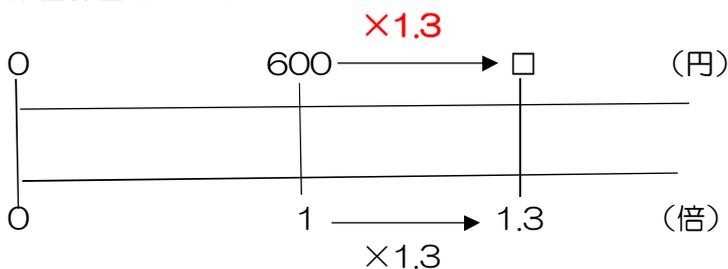
となるが、0.7を出すときに、 $1 - 0.3 = 0.7$ として、ひき算で出している。

また、問題も「30%引きのねだん」として、ひき算を示している。

ところが、数直線図で解こうとすると、 $1 \rightarrow 0.7$ は、 $\times 0.7$ となるので、混乱が起きる。

筆箱の仕入ねだんは、600円です。利益を30%加えて売ります。売るねだんは、いくらですか。

数直線図をかくと



となるが、1.3を出すときに、 $1 + 0.3 = 1.3$ として、たし算で出している。

また、問題も「利益を30%加えて」として、たし算を示している。

ところが、数直線図で解こうとすると、 $1 \rightarrow 1.3$ は、 $\times 1.3$ となるので、混乱する。

※こんなことを考えると、数直線図を使うのは、かけ算・わり算の問題（正確には、比例関係の問題）だけにした方がいいかもしれない。実際、教科書でもたし算・ひき算の問題は、線分図で取り扱っている。

※しかし、「数直線図は、四則演算を表すことができる」という利点を半減してしまうことになってしまう。

※指導者は、子どもたちにどのような指導をしていくのかしっかり考えなくてはならない。そうしなければ、割合の問題の通過率は、上がらないと思う。